

大阪 P C B 廃棄物処理事業に係る 生活環境影響調査書のあらまし



本事業は、日本環境安全事業株式会社が、旧環境事業団の P C B 廃棄物処理事業を承継して、近畿圏二府四県（滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県及び和歌山県）の区域内に存する P C B 廃棄物の広域的かつ適正な処理を図ることを目的として準備を進めているものです。

このたび、本事業の実施が地域の生活環境に及ぼす影響について、調査・検討した結果を生活環境影響調査書としてとりまとめましたので、そのあらましをお知らせします。



日本環境安全事業株式会社

日本環境安全事業株式会社は、旧環境事業団の P C B 廃棄物処理事業を承継して、平成 16 年 4 月 1 日に 100% 政府出資により新しく設立されました。国の指導のもと、全国数力所において、P C B 廃棄物の広域的な処理施設を設置し、処理を行います。

事業の概要

これまでの経緯

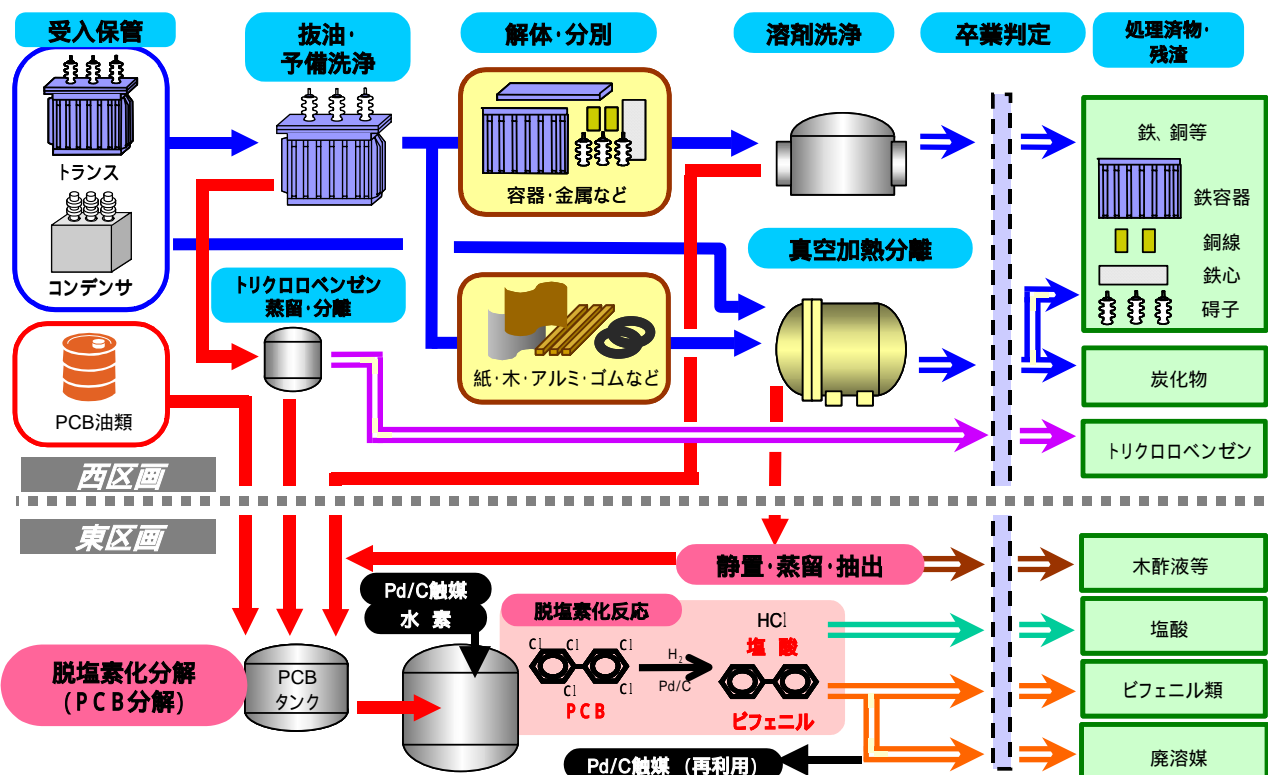
旧環境事業団では、様々な分野の専門家による「環境事業団ポリ塩化ビフェニル廃棄物処理事業検討委員会大阪事業部会」を設置し、大阪市の地域条件を踏まえた処理施設の技術的条件や環境・安全対策を検討していただき、その報告書をもとに施設の設計・施工の発注を行いました。この発注にあたっては、大阪市の地域条件を踏まえ、処理施設全体の一貫性を確保し、システムの性能保証を求めるなど、安全性の確保を大前提とするとともに、情報公開型の施設とすることとしました。

平成16年4月1日以降は、日本環境安全事業株式会社がこのPCB廃棄物処理事業を引き継ぎ、上記の方針に基づき、施設建設に向けた準備作業を進めています。

施設の概要

施設設置場所	大阪市此花区北港白津二丁目内 (約28,550m ² ：西区画約16,000m ² 、東区画約12,550m ²)
処理能力	2トン/日(PCB分解量)
処理方法	PCB分解処理方式：脱塩素化分解法 前処理(洗浄・分離技術)：溶剤洗浄法・真空加熱分離法

< PCB廃棄物処理の流れ >



Pd/C触媒とは活性炭の表面にパラジウムという金属を附着させたものです。

残渣は、極力リサイクルします。

生活環境影響調査の結果

大気汚染

施設からの排気中の大気汚染物質が、事業予定地周辺においてどのくらいの濃度になるか（寄与濃度）、また、それによって事業予定地周辺の大気汚染物質濃度がどの程度になるか（環境濃度）について、拡散計算及び現況調査結果により予測しました。

本施設では、熱源として設置するボイラー（燃料：都市ガス）から、窒素酸化物を含む排気が発生します。

その他の排気としては、処理装置の排気やPCB取扱区域の換気があり、PCBやダイオキシン類等が含まれる可能性がある排気については、オイルスクラバ等の排気処理装置を設け、除去します。さらにすべての排気口は、セーフティネットとして活性炭を通して排出することから、汚染物質の排出量は非常に少ないものとなります。

予測結果では下表のとおり、施設からの大気汚染物質の寄与濃度は小さく、事業予定地周辺における環境濃度は環境保全目標値を下回ると予測されました。

よって、本施設からの排気が生活環境に及ぼす影響はほとんどないと考えております。

<施設からの排気の排出諸元>

項目	排気中の濃度	項目	排気中の濃度
窒素酸化物	60ppm以下	ベンゼン	0.35mg/m ³ _N 以下
PCB	0.1mg/m ³ _N 以下	塩化水素	0.61ppm以下
ダイオキシン類	0.1ng-TEQ/m ³ _N 以下		

<将来環境濃度予測結果>

項目	単位	年平均値			日平均値	
		寄与濃度の 最大値 ()	バックグラウンド 濃度 ()	環境濃度 (= +)	日平均値の 年間98%値	環境保全 目標値
二酸化窒素	ppm	0.00008	0.024	0.02408	0.050	0.06
項目	単位	年平均値				環境保全 目標値
		寄与濃度の 最大値 ()	バックグラウンド 濃度 ()	環境濃度 (= +)		
PCB	mg/m ³	0.00000139	0.00000088	0.00000227	0.0005	
ダイオキシン類	pg-TEQ/m ³	0.0014	0.26	0.2614	0.6	
ベンゼン	mg/m ³	0.00000001	0.00095	0.00095001	0.003	
塩化水素	ppm	0.00000005	0.003	0.00300005	0.02	

- 注：1. 寄与濃度の最大値とは、施設からの排気・換気による影響が最大となると予測される地点における、施設からの大気汚染物質の濃度です。
2. バックグラウンド濃度は、平成15年度に実施した、事業予定地周辺における現地調査結果の年平均値としました。
3. ppmとは100万分の1を表す単位です。また、mgとは1千分の1g、ngとは10億分の1g、pgとは1兆分の1gです。
4. ダイオキシン類の単位に用いるTEQとは、ダイオキシン類は種類によって大きく毒性が異なることから、ダイオキシン類の1種である2,3,7,8-TCDDの毒性を1として、ダイオキシン類の量を毒性の強さとして表したものです。
5. 環境保全目標値は、大気汚染に係る環境基準等に基づき設定しました。

騒音・振動

騒音については、施設の屋上に設置する空調機器等が主要な発生源、振動については、施設内に設置する容器解体装置等が主要な発生源です。これらから発生する騒音・振動が事業予定地周辺においてどのぐらいの大きさになるか（施設からの到達騒音・振動レベル）について、伝播計算により予測しました。

本施設では、屋上の空調機器等の周囲には防音壁を設置するなどの対策、防振対策が必要な機器については防振材を使用する等の対策を行い、事業予定地周辺への騒音・振動の影響をできる限り低減しています。

予測結果では下表のとおり、施設からの騒音・振動は環境保全目標値を下回ると予測されました。

よって、本施設からの騒音・振動が生活環境に及ぼす影響はほとんどないと考えております。

<施設からの騒音・振動予測結果>

項目	敷地境界における最大値	環境保全目標値
施設からの到達騒音レベル	53 デシベル	朝（6:00～8:00）：60 デシベル 昼間（8:00～18:00）：65 デシベル 夕（18:00～21:00）：60 デシベル 夜間（21:00～6:00）：55 デシベル
施設からの到達振動レベル	54 デシベル	昼間（6:00～21:00）：65 デシベル 夜間（21:00～6:00）：60 デシベル

注：環境保全目標値は、騒音規制法、振動規制法による規制基準に基づき設定しました。

悪臭

施設からの排気中の臭気濃度及び悪臭物質が、事業予定地周辺においてどのぐらいの濃度になるか（寄与濃度）について、拡散計算により予測しました。

本施設では、特定悪臭物質は使用しませんが、真空加熱分離装置の排気に悪臭物質が含まれる可能性があります。このためこれらの排気については、オイルスクラバにより排気処理を行い、さらに活性炭を通して排出することから、排気口において臭気濃度800以下、アセトアルデヒド、トルエン共に0.1ppm以下となり、悪臭は非常に小さいものとなります。

予測結果では下表のとおり、施設からの臭気濃度及び悪臭物質の寄与濃度は小さく、環境保全目標値を下回ると予測されました。

よって、本施設からの悪臭が生活環境に及ぼす影響はほとんどないと考えております。

<施設からの悪臭予測結果>

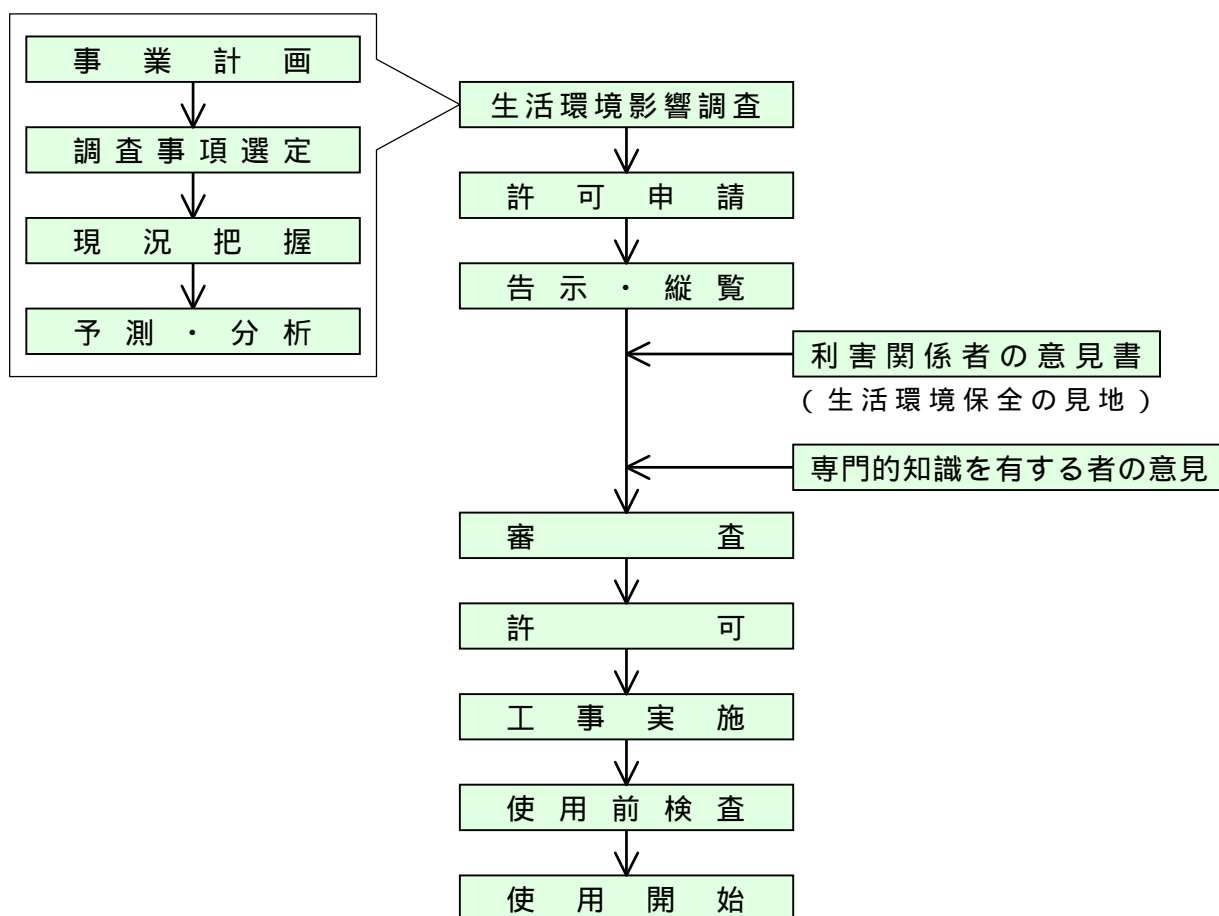
項目	単位	寄与濃度の最大値	環境保全目標値
臭気濃度	-	0.0030	10
アセトアルデヒド	ppm	0.0000003	0.05
トルエン	ppm	0.0000003	10

注：1. 寄与濃度の最大値とは、施設からの排気による影響が最大となると予測される地点における、施設からの臭気濃度もしくは悪臭物質濃度です。
2. 環境保全目標値は、悪臭防止法による規制基準等に基づき設定しました。

生活環境影響調査の目的及び内容

生活環境影響調査は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づく処理施設の申請をする上で実施する必要があるもので、施設の設置が周辺地域の生活環境に及ぼす影響についてあらかじめ調査を行い、地域の生活環境の保全への適正な配慮を図ることを目的とするものです。

＜産業廃棄物処理施設許可申請手続きの流れ＞



＜選定した調査事項＞

	調査事項	大気汚染	騒音	振動	悪臭
影響要因					
施設排気の排出					
施設の稼働					



日本環境安全事業株式会社 大阪事業所

〒552-0007

大阪市港区弁天1丁目2番1-2514号(オーク200 一番街25F)

TEL 06-6575-5575 FAX 06-6575-5576

日本環境安全事業株式会社 本社

〒105-0014

東京都港区芝1-7-17 住友不動産芝ビル3号館

TEL : 03(5765)1919 FAX : 03(5765)1939

ホームページアドレス：<http://www.jesconet.co.jp/>

PCB処理事業のホームページアドレス：<http://www.jesconet.co.jp/pcbtop.htm>

ご意見・お問い合わせ(E-Mail)：jesco@jesconet.co.jp